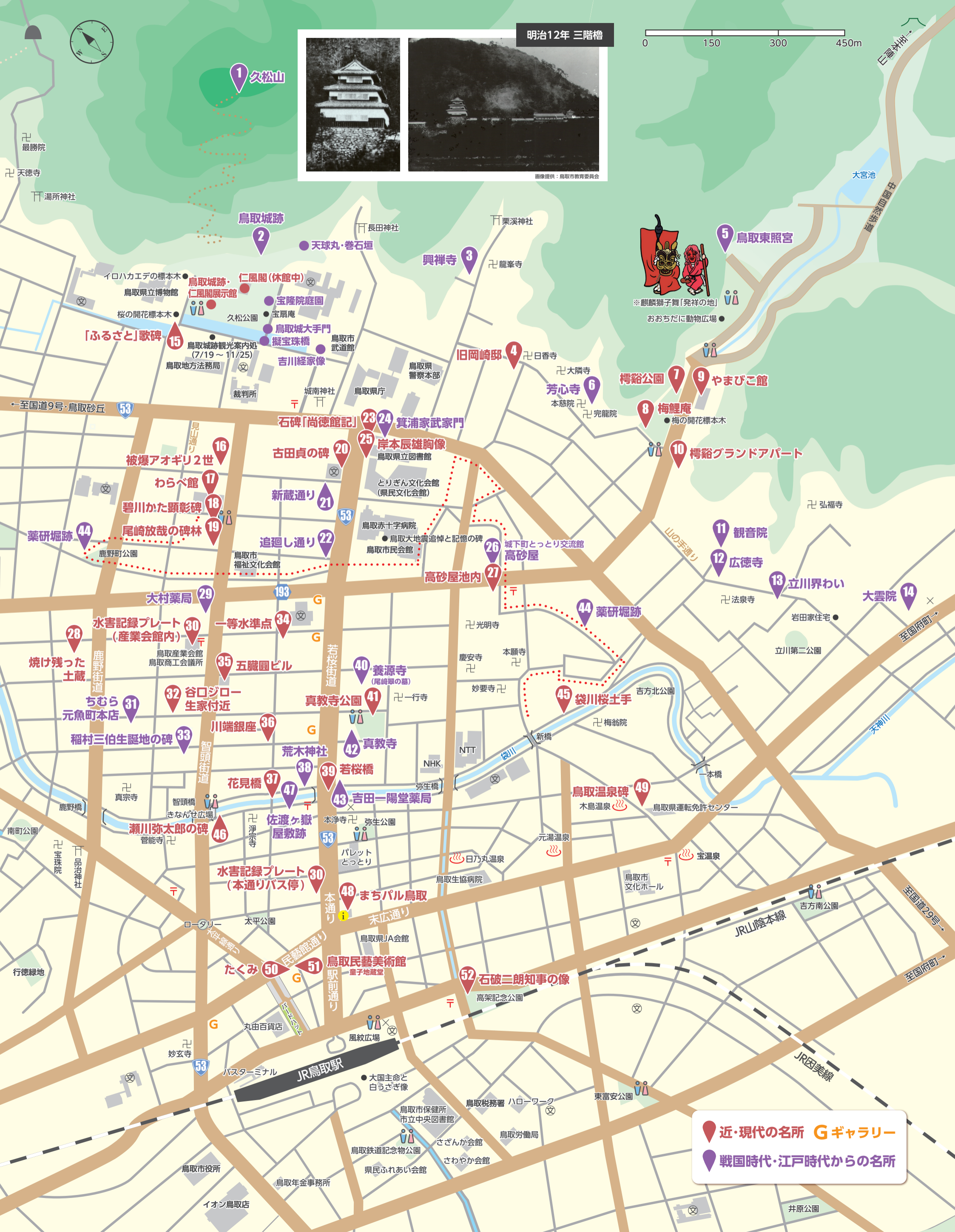


鳥取まちなかぶらりマップ



明治12年 三階櫓

画像提供：鳥取市教育委員会

📍 近・現代の名所 G ギャラリー
📍 戦国時代・江戸時代からの名所

鳥取まちなかふらりマップ

「鳥取」地名の由来

『日本書紀』垂仁二十三年紀 ホムツツケ皇子 鵜(くぐひ) 鳥取部を定めたまふ、とある。「和名(わみやう)類聚抄(るいじゆしやう)」(平安時代中期に編纂)に、「鳥取」地名が全国に何箇所も載る。「因幡国」では、七郡の中の「邑美郡」の五郷の一つとして「鳥取」が載る。中世では、「とっとり山」(現在の久松山)の名に使われている。

城下町の整備の推移

- ◎鳥取市街地は元来、「沼沢地にして城郭市井を置くべき天然の地にてはあらざりし」といわれ水害多発地帯だった。
- ◎池田長吉(6万石) 薬研(やげん)堀を外堀として城下を整備。
- ◎池田光政(32万石) 手狭として、城下を拡充。薬研堀を中堀、現在の袋川を人工的に開削し外堀とした。

近代の鳥取市

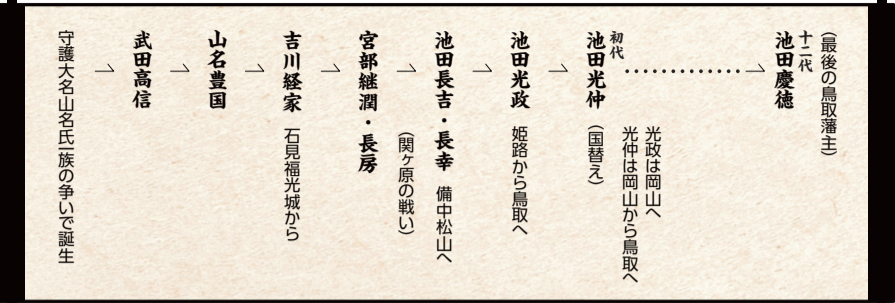
人口 約3万3千人(寛延2年(1749)) (士族2万人、町民1万3千人)

- 明治14年(1881) 鳥取県再置
- 明治22年(1889) 市制施行(約2万8千人)
- 明治29年(1896) 鳥取四十連隊設置
- 明治40年(1907) 皇太子行啓、仁風閣 電燈ともる、鳥取駅(仮駅)
- 明治45年(1912) 山陰線全通
- 大正7年(1918) 千代川氾濫による大洪水(前後にもあり)
- 昭和18年(1943) 鳥取大震災
- 昭和27年(1952) 鳥取大火

近・現代の名所 戦国時代・江戸時代からの名所

- 久松山** 戦国時代は「とっとり山」。江戸中期～明治は「ひさまつやま」。松平姓が与えられた鳥取池田家の居城が久松城と呼ばれるようになり、やがて山の名称ともなった。大正以降は「きゅうしやうざん」。
- 鳥取城跡**
 - 宝隆院庭園** 池田回遊式の日本庭園。先代慶栄(よしとか)の妻・宝隆院を慰めるために池田慶徳が造った。庭園の隅にある茶室「宝扇庵」は、鳥取城の一部として唯一現存している建物。
 - 仁風閣(休館中)** 片山東熊設計、フレンチ・ルネッサンス様式の白亜の洋館。国重要文化財。「るろうに剣心」のロケ地。文化財保存修理中(2028年度下半期再開館予定)
 - 鳥取城跡・仁風閣展示館** 鳥取城跡と仁風閣の紹介を展示パネルや映像で行っている。日本100名城スタンプの公式押印場所や武符合戦の販売。
 - 天球丸・巻石垣** 池田長吉の姉(天球院)が、若桜鬼ヶ城城主山崎家盛と離縁後、住んだ場所由来。巻石垣は、天球丸の石垣崩壊を防止することを目的に、文化4年(1807)頃に築き足された球面石垣。
 - 吉川経家像** 秀吉と戦った鳥取城主吉川経家は、兵糧攻めに。部下や住民の助命と引き換えに、自らの命を絶った「鳥取市民の命の恩人」。
 - 鳥取城大手門** 元和7年(1621)に、池田光政によって創建。「中ノ御門表門」は、2021年3月復元工事竣工。「中ノ御門渡櫓門」は、城内初の二階建て復元櫓で2025年3月完成予定。
 - 擬宝珠橋** 城郭復元木造橋としては、日本最長。堀底に残る橋脚遺構を保護しつつ、特殊なステンレス製水中梁を設置する、日本初の工法を採用。2018年9月復元工事竣工。
- 興禅寺** 鳥取藩主池田家の菩提寺として開創。境内には剣豪・渡辺数馬や臼井本覚の墓、俳人尾崎放哉の句碑もある。桃山時代の様式を受け継いだ江戸初期の庭園も見どころ。
- 旧岡崎邸** 藩主岡崎平内(5代目)が天保6年(1835)に建築した武家屋敷。7代目平内は鳥取県再置に尽力、初代鳥取市長、衆議院議員(第一回)。日本最初の女性弁護士中田正子が戦後居住。
- 鳥取東照宮** 慶安3年(1650)、鳥取藩初代藩主池田光仲(家康の曾孫)により日光東照宮を勧請して創建。本殿、拝殿などは国重要文化財。2019年日本遺産に認定される。
- 芳心寺** 藩祖光仲の国替えに伴い、現在地へ。光仲の正室で家康の孫の茶々姫(芳心院)の菩提寺。正徳3年(1713)寺号を「芳心寺」に改称。日蓮大聖人の分骨が安置されている。
- 栲谿公園** 江戸時代に、別当寺の大雲院があったが、明治初年の神仏分離により立川へ。明治になって鳥取招魂社(のち護国神社)が建立された。これも、1974年に浜城に移された。
- 梅鯉庵** 休憩や会合などで利用される。前に広がる日本庭園は藩祖・光仲が創建した「大雲院」の庭園の一部である。また、一角には1951年まで袋川に浮かべられた最後の「屋形舟」がある。
- やまびこ館** 鳥取の歴史・文化が分かる、鳥取市歴史博物館の愛称。常設展示が、新しくなって見ものである。特別展の開催もある。
- 栲谿グランドアパート** 鳥取市文化財。昭和5年建築の洋館。和洋折衷の住宅と進駐軍宿舎が融合した建物。
- 観音院** 国名勝の池泉鑑賞式庭園。亀島、鶴島、滝の石組みなど元禄時代のままに配置され、四季折々の表情を楽しめる。4代目佐渡ヶ嶽澤右衛門(1774～1824)の墓あり。
- 広徳寺** 池田輝政が父恒興と兄元助の菩提を弔うため開いた。藩祖光仲の国替えに随伴。日下開山鎌倉十七の墓と伝えられてきた、力士としては日本最古の墓あり。門前に郡境(邑美・法美)の石あり。
- 立川界わい** 「放哉の小径」とも名付けられた「山の手通り」が走り、行まいには城下町の風情が。尾崎放哉の住居跡に建つ句碑や鳥取中学時代の文学仲間岩田勝市の旧居が残る。藩医で本草学者の平田眼翁の墓もある。
- 大雲院** 鳥取東照宮の別当寺として慶安3年(1650)年光仲が建立。明治になり現在地に。御霊屋に徳川将軍位牌7基を安置。中国観音霊場三十三番観音所。最後の藩主池田慶徳の墓あり。
- 「ふるさと」歌碑** 岡野貞一(名誉市民)が作曲した文部省唱歌。1973年に建立。隣に有名な歌手が歌うメロディーボックスがある。
- 被爆アオギリ2世** 広島通信局庁舎の中庭で被爆し、平和記念公園に移植された青桐の種から育ったアオギリ2世の苗木が2003年8月に植樹され、大きく育っている。
- わらべ館** 童謡・唱歌とおもちゃがテーマの子供も大人も楽しめる体験型ミュージアム。鳥取県の代表的な音楽家、田村虎蔵、永井幸次、岡野貞一を紹介。
- 碧川かた顕彰碑** 明治2年鳥取生まれ。「赤とんぼ」を作詞した三木露風の母。看護婦として自立し、禁酒・婦人参政権運動に尽力。
- 尾崎放哉の碑林** 自由律俳句の実作者として先駆をした尾崎放哉。己の人生と格闘して生まれた数々の名句を生誕130年を記念して市内各地に建碑。

鳥取城主の変遷



- 古田貞の碑** 明治2年生まれ、明治33年女子裁縫塾を開き、明治38年「鳥取裁縫女学校」を創立。現在の鳥取敬愛高校に繋がる。名誉市民。
- 新蔵通り** 年貢米を納める城下の藩蔵所があった。川筋跡の名残りがうかがえる場所がある。
- 追廻し通り** 柳土手に並行して馬場(藩の乗馬の訓練場)が、設けられていた。馬場の中央に低い土手があり、その周囲を追廻しに馬を走らせた。
- 石碑「尚徳館記」** 藩校尚徳館があった場所。最後の鳥取藩主池田慶徳により建立。「君臣の依るべき道は文武二道」と記す。
- 箕浦家武家門** 堀端にあった二千石の藩士の武家屋敷門。唯一現存。大阪の素封家・広岡松三郎が寄贈。
- 岸本辰雄胸像** 明治大学の創設者。明治新政府の貢進生に選ばれ。パリ大学に留学。法学博士。生家跡は、やまびこ館駐車場近く。
- 城下町とっとり交流館 高砂屋** 明治時代の形が今に残る商家の建物。国登録有形文化財。県内の民芸品、和紙、焼物などを販売。放哉蔵あり。
- 高砂屋池内** 光仲の国替えに伴い、岡山から移住し、寛永9年(1632)年に開業した老舗の商家。
- 焼け残った土蔵** 鳥取大火の中で焼け残った。大火の時に家財道具をこの土蔵に運び込み、約10日間避難生活をされたエピソードあり。
- 大村薬局** 光仲の国替えに伴い、岡山から鳥取へ。寛永9年(1632)年御用薬種商として創業以来同じ場所。社長は代々、久兵衛を襲名。
- 水害記録プレート(産業会館内・本通りバス停)** 「洪水浸入線 大正7年9月14日」の銘。大洪水により鳥取平野が水没。
- ちむら 元魚町本店** 池田公が質素・倹約を推奨し「とうふちくわ」が誕生。慶応元年(1865)、初代千村清次郎の創業。
- 谷口ジロー一家付近** ヨーロッパで最も人気があった漫画家。フランス芸術文化勲章「シュヴァリエ」受勲。「父の唇」、「孤独のグルメ」、「坊ちゃん」の時代
- 稲村三伯生誕地の碑** 蘭学の発展に大きく貢献した医師・蘭学者(1758～1811)。日本最初の蘭和辞典「ハルマ和訳」完成。顕彰碑がほかに2箇所ある。
- 一等水準点** 遷喬小学校グラウンド横に設置。「日本水準原点」は?
- 五臓園ビル** 鳥取大震災・鳥取大火にも耐えた、現存する鳥取市内最古の鉄筋コンクリート建築物。1階に「五臓園薬局」が入る。2010年国登録有形文化財に指定。
- 川端銀座** 大正・昭和の時代、世界館、帝国館など市内の映画館が集中し、にぎわった通り。「川端銀座」の名称は、鳥取大火の前、1951年から使われている。
- 花見橋** 桜の名所。鳥取大火の後に架橋。赤い橋の由来は?見下ろすと鯉が迎えてくれる。新蔵通りから民藝館通りまでの「花見橋通り」を行き交う人は意外と多い。
- 荒木神社** 日本三大仇討ちのひとつ、伊賀上野鍵屋の辻で本懐を遂げた、荒木又右衛門を祀る。屋敷跡に建立。鳥取大火で半分が割れた、又右衛門が使用した手水鉢がある。勝負の神様。
- 若桜橋** 鳥取大火復興のシンボル。「不死鳥のように舞い上がれ」と願った、山本兼文作のモニュメント。大火後若桜街道は拡幅され、全国初の「防火建築帯」に指定。
- 養源寺** 光仲の国替えに伴い、岡山から鳥取へ。小説家尾崎翠(みどり)の墓がある。代表作の『第七官界彷徨』は今なお斬新さを失わない。
- 真教寺公園** 鳥取大火後の火災復興土地区画整理事業に伴い、整備。1976年、久松公園より動物を移転し、動物公園(無料)となる。
- 真教寺** 吉川経家の菩提寺。光仲の時代に現在地に。鳥取吉川遺徳顕彰会により毎年10月25日に追善法要。
- 吉田一陽堂薬局** 光仲の国替えに伴い、岡山から鳥取へ。「よし田や」の屋号で茶町に寛永9年(1632)創業。「一陽堂」の名は「一陽来復」から。
- 薬研堀跡** 寺町から材木町にかけて築かれた堀。鳥取城から薬研堀までを武家地、薬研堀から袋川までを町人地にした。昭和4～7年の間に埋められた。現在その痕跡を残す。
- 袋川桜土手** 日露戦争の勝利と大正天皇御大典を記念して、土手の竹藪を取り払い桜に植え替えた。若桜橋近くでは、田村、岡野が作曲した童謡唱歌がメロディーの箱から流れる。
- 瀬川弥太郎の碑** 鳥取高農の学生時代、土手沿いの桜の思い出を持つ瀬川弥太郎が鳥取大火後、匿名で桜の苗木を10年間送り続けた結果、桜並木が復活した。総数800本。
- 佐渡ヶ嶽屋敷跡** 因州藩お抱え力士の棧(かけは)シ初五郎、四代佐渡ヶ嶽を襲名。「毎々花角力を興行せり」とある。
- まちパル鳥取** 一階は「鳥取市ふるさと物産館」。鳥取いなばの名産・特産品を紹介・販売。二階は「鳥取市観光コンベンション協会」「鳥取市環日本海経済交流センター」が入る。
- 鳥取温泉碑** 明治37年に湧出した。大正～昭和の初めに末広温泉・永楽温泉へ広がった。
- たくみ** 鳥取民藝の生みの親・吉田璋也(名誉市民)が、「鳥取たくみ工芸店」を若桜街道沿いに昭和7年創業。日本で初めての民藝専門店。「たくみ割烹店」は「しゃぶしゃぶ」発祥の地。
- 鳥取民藝美術館** 吉田璋也が創立した美術館。長年にわたって収集した日本各地の民藝品と海外の民藝品を展示(約5000点収蔵)。隣に「童子地藏堂」があり、154体の地藏を収める。
- 石破二郎知事の像** 元鳥取県知事(1974～1981)。鳥取県の「後進性打破」を進め、駅の高架など近代化に努めた。彫刻家 福嶋敬恭の作である。

お問合せ先 「鳥取まちなかガイドの会」代表 内田 克彦
E-mail ▶ tottori.machinaka.gaido@gmail.com

ガイドお申し込み先

E-mail ▶ tottori.machinaka.gaido@gmail.com

ネット申込みはこちら 「鳥取まちなかガイドの会」について

